



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成29年2月8日

上場会社名 サイバーコム株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3852 URL <http://www.cy-com.co.jp>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 渡辺 剛喜
 問合せ先責任者(役職名) 執行役員 経営管理部長 (氏名) 兀下 恵子 (TEL) (045) 312-3271(代表)
 四半期報告書提出予定日 平成29年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	7,090	10.0	480	4.9	505	7.1	344	11.6
28年3月期第3四半期	6,447	6.3	458	6.7	472	6.9	308	11.2
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
29年3月期第3四半期	42.96		—					
28年3月期第3四半期	38.48		—					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第3四半期	6,447	4,057	62.9
28年3月期	6,508	3,816	58.6

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 4,057百万円 28年3月期 3,816百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	13.00	13.00
29年3月期	—	0.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	13.00	13.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,400	5.9	506	0.1	512	△2.0	355	3.1	44.25

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

29年3月期3Q	8,021,600株	28年3月期	8,021,600株
----------	------------	--------	------------

② 期末自己株式数

29年3月期3Q	744株	28年3月期	744株
----------	------	--------	------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

29年3月期3Q	8,020,856株	28年3月期3Q	8,020,856株
----------	------------	----------	------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	3
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 追加情報	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 継続企業の前提に関する注記	6
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間におけるわが国の経済は、企業収益や雇用情勢の改善が続き、国内景気が緩やかな回復基調を示したものの、英国のEU離脱問題及びアジア新興国等の景気下振れリスクに加え、米国新政権への移行に伴う影響もあり、先行き不透明な状況で推移いたしました。

当業界においては、幅広い分野でソフトウェア投資の回復基調が続き、情報システムやネットワークのセキュリティ対策及び信頼性の確保に対する取り組み、車載、交通分野並びにエネルギー、医療分野等の社会インフラにおける需要拡大に加え、AI、IoT (Internet of Things)、フィンテック、自動運転、第5世代移動通信(5G)といった新たな技術を活用したビジネスへの期待が高まっておりますが、IT技術者不足が常態化し人材の確保及び育成が大きな課題となっております。

このような状況下、当社はリピートオーダーの確保や新規顧客の開拓に向けた受注活動を継続的に推進し、今後の需要拡大が見込まれる分野への積極的な営業展開を図ってまいりました。また、動員力強化に向けた取り組みとして中途採用を積極的に実施すると共に、パートナーと位置付ける協力会社とのリレーションシップ強化施策を継続してまいりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間における経営成績は、売上高70億90百万円(前年同期比10.0%増)となりました。また、利益面においては人材採用の拡大や技術者教育強化等の先行投資に加え、退職給付費用の増加等もありましたが、営業利益4億80百万円(前年同期比4.9%増)、経常利益5億5百万円(前年同期比7.1%増)、四半期純利益3億44百万円(前年同期比11.6%増)となりました。

当第3四半期累計期間におけるセグメント別の業績は以下のとおりであります。

[ソフトウェア開発事業]

当社の主力事業でありますソフトウェア開発事業においては、各部署における得意分野の豊富な実績やノウハウを活かせる開発体制への集約と強化を図ると共に、ISO9001に準拠した品質マネジメントシステムの徹底による品質の向上と、OSSの利活用や部品化の徹底、ツールの活用等による生産性の向上を図ってまいりました。

通信ソフトウェア開発は国内外の通信システム案件が減少傾向で推移いたしました。また、制御ソフトウェア開発におけるECU (Electronic/Engine Control Unit) 関連やカーナビゲーション関連等の車載システム開発案件が好調に推移いたしました。また、業務ソフトウェア開発においては、企業向け業務システム、医療向けシステム、生保システム、ECサイト構築、電子マネー・クレジット決済システム、エネルギー関連のシステム開発案件等が好調に推移いたしました。

以上の結果、売上高57億18百万円(前年同期比10.2%増)、営業利益8億62百万円(前年同期比12.9%増)となりました。

[サービス事業]

サービス事業のSIサービス(構築・保守・運用・評価検証サービス)においては、クラウド化対応案件や通信キャリア向けネットワーク構築案件の継続に加え、保守・運用・評価検証案件も堅調に推移いたしました。

また、自社プロダクトにおいては、Cyber Smartシリーズ製品(Cyber IP-PBX、Cyber CTI、Cyber Phone)のクラウドサービス提供によるラインナップの拡充に加え、コールセンター構築案件に対するCyber IP-PBXの導入提案、イベントへの出展による販売強化に取り組んでまいりました。

以上の結果、売上高13億72百万円(前年同期比9.1%増)、営業利益1億72百万円(前年同期比0.0%減)となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

(資産)

当第3四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べて60百万円減少(0.9%減)し64億47百万円となりました。その内訳は、流動資産が87百万円減少(1.5%減)し56億22百万円となり、固定資産が26百万円増加(3.3%増)し8億24百万円となったことによるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べて3億1百万円減少(11.2%減)し23億89百万円となりました。その内訳は、流動負債が3億81百万円減少(27.9%減)し9億88百万円となり、固定負債が80百万円増加(6.1%増)し14億1百万円となったことによるものであります。

流動負債減少の主な要因は、賞与引当金の減少2億90百万円、未払法人税等の減少1億17百万円によるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べて2億40百万円増加(6.3%増)し40億57百万円となりました。

(3) 業績予想に関する定性的情報

平成29年3月期の業績予想につきましては、平成28年5月11日発表の業績予想のとおり変更ありません。今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 追加情報

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期会計期間から適用しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	992,004	736,251
受取手形及び売掛金	2,009,049	2,022,648
商品	2,627	2,455
仕掛品	59,417	108,104
短期貸付金	2,389,848	2,590,029
その他	256,384	162,822
流動資産合計	5,709,331	5,622,312
固定資産		
有形固定資産	265,515	263,187
無形固定資産	77,319	80,505
投資その他の資産	455,864	481,032
固定資産合計	798,700	824,725
資産合計	6,508,031	6,447,037
負債の部		
流動負債		
買掛金	286,639	282,778
未払費用	193,795	222,851
未払法人税等	120,472	2,641
賞与引当金	510,680	219,861
役員賞与引当金	23,535	12,495
その他	235,307	248,000
流動負債合計	1,370,430	988,628
固定負債		
退職給付引当金	1,294,505	1,384,888
役員退職慰労引当金	26,363	16,451
固定負債合計	1,320,868	1,401,339
負債合計	2,691,299	2,389,968
純資産の部		
株主資本		
資本金	399,562	399,562
資本剰余金	307,562	307,562
利益剰余金	3,109,839	3,350,177
自己株式	△232	△232
株主資本合計	3,816,732	4,057,069
純資産合計	3,816,732	4,057,069
負債純資産合計	6,508,031	6,447,037

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	6,447,227	7,090,754
売上原価	5,162,630	5,667,080
売上総利益	1,284,596	1,423,674
販売費及び一般管理費	826,382	942,920
営業利益	458,214	480,754
営業外収益		
受取利息	5,439	3,795
助成金収入	6,516	17,887
その他	1,904	2,990
営業外収益合計	13,860	24,673
経常利益	472,075	505,427
特別損失		
固定資産除却損	24	—
特別損失合計	24	—
税引前四半期純利益	472,051	505,427
法人税、住民税及び事業税	62,596	58,485
法人税等調整額	100,791	102,333
法人税等合計	163,387	160,819
四半期純利益	308,663	344,608

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。